

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)博多区新庁舎

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		竣工段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.7
Q1 室内環境					0.40				3.6
1 音環境				3.2	0.15				3.2
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0			
1.2 遮音				3.0	0.40				
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	3.0			
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0			
1.3 吸音		床、天井に吸音材を使用		4.0	0.20	3.0			
2 温熱環境				3.4	0.35				3.4
2.1 室温制御				3.8	0.50				
1 室温				3.0	0.38	3.0			
2 外皮性能		BPI _m =0.83		5.0	0.25	3.0			
3 ゾーン別制御性		方位ごとの空調系統分け		4.0	0.38				
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0			
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0			
3 光・視環境				3.2	0.25				3.2
3.1 昼光利用				1.8	0.30				
1 昼光率				1.0	0.60	3.0			
2 方位別開口					-	3.0			
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0			
3.2 グレア対策				3.0	0.30				
1 昼光制御				3.0	1.00	3.0			
3.3 照度		事務室全般照明方法で照度700Lx		4.0	0.15	3.0			
3.4 照明制御		照明1灯毎の個別制御及び自動照明制御		5.0	0.25	3.0			
4 空気質環境				4.7	0.25				4.7
4.1 発生源対策				5.0	0.50				
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の建築材料を採用		5.0	1.00	3.0			
4.2 換気				4.0	0.30				
1 換気量		外調機方式、30m ³ /h人		4.0	0.33	3.0			
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0			
3 取り入れ外気への配慮		屋上での外気取入れ。給排気は6m ² 以上離隔		5.0	0.33	3.0			
4.3 運用管理				5.0	0.20				
1 CO ₂ の監視		CO ₂ 濃度監視による換気量制御		5.0	0.50				
2 喫煙の制御		ビル全体禁煙		5.0	0.50				
Q2 サービス性能					0.30				3.6
1 機能性				3.0	0.40				3.0
1.1 機能性・使いやすさ				2.3	0.40				
1 広さ・収納性				1.0	0.33	3.0			
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0			
3 バリアフリー計画				3.0	0.33				
1.2 心理性・快適性				3.6	0.30				
1 広さ感・景観				3.0	0.33	3.0			
2 リフレッシュスペース				3.0	0.33				
3 内装計画		内装計画の段階でインテリアパースによる検証をしている		5.0	0.33				
1.3 維持管理				3.5	0.30				
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保		専用部以外の諸設備は共用部での維持管理作業が可能		4.0	0.50				
2 耐用性・信頼性				4.2	0.30				4.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				5.0	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた50%以上の耐震性を有する		5.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能		揺れを抑える装置を導入し、強風時の内部設備保護を図っている		5.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				3.3	0.30				
1 躯体材料の耐用年数		住宅の品質確保の促進に関する法律で等級2相当		4.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出ダクトはガルバリウム鋼板製		4.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20				
2.4 信頼性				3.8	0.20				
1 空調・換気設備		配管等の耐震支持、系統分け、換気は個別方式、電気室はバックアップと低負荷対応		5.0	0.20				
2 給排水・衛生設備		節水型器具、受水槽に水栓設置		5.0	0.20				
3 電気設備				3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20				
5 通信・情報設備				3.0	0.20				

3 対応性・更新性			3.7	0.30	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高4.1m以上	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.11	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	シャフトに予備スリーブ設置	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	予備スペース確保	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.0
1 生物環境の保全と創出		立地特性把握、既存樹の移植、外構緑化指数66%、建物緑化指数	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		周辺施設の色彩に調和した色相を採用	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		ピロティ空間、公開空地等のオープンスペースを確保	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		空地率44%、室外機のほとんどをGL+10m以上の位置に設置	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.83	4.7	0.20	-	-	4.7
2 自然エネルギー利用		窓開け推奨ランプ表示システム(電気図追加)	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.55	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			5.0	0.20	-	-	5.0
集合住宅以外の評価			5.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	BEMS設置	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	BEMS設置	5.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.0
1 水資源保護			3.5	0.20	-	-	3.5
1.1 節水		節水器具採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.3	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	再生水使用	4.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.5	0.60	-	-	4.5
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.13	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		再生鋼材(小梁、間柱、大梁中央)	5.0	0.25	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		パーテイルボード:床,集成材:エントランス,断熱サッシ:外部スチール建具	5.0	0.25	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.13	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上材が分別可能、構造部材の再利用可	5.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料を採用	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率が参照値の66%	4.3	0.33	-	-	4.3
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の使用なし	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	雨水貯留槽を設ける	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	JIS照度基準に則った計画、広告物照明を行っていない	4.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	